

# 「我が国がこれまで経験した災害とその経験を踏まえた防災対策への取組」 松本政務官 ご発言要旨（案）

会議名：東日本大震災総合フォーラム  
日 時：2015年3月14日（土）13:30  
場 所：東北大学川内萩ホール

内閣府政務官の松本でございます。

東日本大震災総合フォーラムの開会にあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

この総合フォーラムは、関連事業で行われるシンポジウムの中でも最も規模が大きく、全体で10ものセッションがあり、様々なテーマに沿って議論が行われる予定です。この盛大なフォーラムに向けてこれまで準備をされてきた、有識者・事務局の皆様のご尽力に敬意を表したいと思います。この総合フォーラムのトップバッターとして開催される本セッションにて挨拶をすることが出来、大変光栄です。

第3回国連防災世界会議は、日本で、そして4年前に発生した東日本大震災の被災地である仙台で開催されます。その意義は、我が国にとって、大きく三点あると思います。

一点目は、世界各国において、あらゆる施策に防災の視点を盛り込む「防災の主流化」に積極的に貢献することです。国連防災世界会議は第1回、第2回とも我が国で開催され、第2回会議では、阪神・淡路大震災から10年のタイミングで、兵庫県神戸市で開催され、2005年から2015年までの世界各国の防災の取組指針である「兵庫行動枠組」が策定されました。そして、今回の第3回会議では、この兵庫行動枠組の後継となる、2015年より先の新たな防災枠組が策定されます。

また、2015年は、持続可能な開発目標や新しいミレニアム開発目標が策定される年でもあり、これらに防災の視点をしっかりと盛り込むことにより、各国の開発政策や気候変動の適応対策に防災の取組を一気に組み込むことが可能となるチャンスの時でもあります。

我が国としては、これら開発目標に先立って策定される新たな防災枠組に、災害リスクの削減の取組は、コストではなく、強靱な社会を作るための未来への投資であるという考え方や、災害発生後の復興段階に将来の災害に備えた災害予防の取組を行う「より良い復興（ビルド・バック・ベター）」という考え方を盛り込むことが重要と考えています。

本日から始まった第3回国連防災世界会議では、山谷防災担当大臣が議長を務めており、兵庫で築き上げた枠組をベースとしながら、これらの重要な考え方が盛り込まれた新たな防災枠組を仙台でまとめ上げ、世界各国の「防災の主流化」に積極的に貢献してまいります。

二点目は、我が国が幾多の災害を通じて培った防災に関する様々な知見や技術を世界に向けて発信することです。国連防災世界会議には、世界各国から首脳・閣僚、国際機関代表等、本体会議に5,000人、関連事業も含めると国内外から全体で4万人以上が参加することが見込まれています。本体会議においても専門的な知見が交換されますが、本体会議の周辺の会場、さらには隣接する近県の会場においても、我が国や地元自治体を中心となって、防災に関する様々なシンポジウム、展示等の関連事業が行われます。これらの活動を通じて、世界中から集まった会議参加者に、我が国が過去の幾多の自然災害から得られた知見や教訓、防災技術・ノウハウ等を、開発途上国にも分かり易い形で発信していきたいと考えます。

この総合フォーラムは関連事業の中心的なイベントですので、これから行われる被災各県の復興や新たな災害対策への取組、ポスト兵庫行動枠組への貢献策などについての発表や、後半行われるパネルディスカッションの議論が、国際社会にどのようなインパクトを与えるのか、大いに期待したいと思っております。

三点目は、震災時に世界各国から受けた支援への謝意を改めて示すとともに、本世界会議に参加する世界各国からの多くの人々に、東日本大震災からの復興の現状や取組を見て頂き、復興の現状を世界に向けて発信する好機と言えます。このため、会議参加者に被災地を視察してもらうスタディ・ツアーのほか、東北や日本の文化や魅力をアピールするエクスカージョンも会議後に用意されています。それらの取組により、東北を訪れるリピーターを増やすことなどにより、被災地の復興につなげていければと思っております。

本総合フォーラムが、国際社会に東北の力強い復興の姿を示すとともに、ポスト兵庫行動枠組の実施や定着に向けて貢献していくことを祈念しまして、私の挨拶と致します。

ありがとうございました。

(了)